

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [北西悠真]

学年・組・番号 [3 年 A 組 8 番]

研究課題： 対馬の観光業における今後の展望

(英文) Future Prospect of Tsushima's Tourist Industry

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

九州よりも朝鮮半島に近いという地理的特性を持つ対馬は、長崎県に属する離島である。南北 82km、東西 18km の細長いこの島は、釜山から 49.5km、博多から 138km の距離に位置し、さながら日本列島と朝鮮半島の間置かれた飛び石のようである。対馬北部の比田勝という港町は、釜山から船で 1 時間半しかかからないため、韓国人観光客で溢れており、島の経済は韓国人観光客に大きく依存している。しかし、観光客が増えれば増えるほど良いわけではなく、2018 年には人口 3 万人の対馬に年間 40 万人の韓国人観光客が訪れることになり、オーバーツーリズムの問題に直面した。主な要因としては、観光業に対して労働力が満足以供給されておらず、受け入れ態勢が不十分なものとなっていることが挙げられる。今夏に対馬を訪れて、地元の商店や役所にインタビューをしたところ、対馬では人口減少と過疎化・高齢化が急速に進行していることから、宿泊施設や飲食店は常に人手不足の問題を抱えていることが分かった。そこで、対馬の観光業における労働力の創出方法について考えていきたい。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

対馬では、移住金を付与するだけでなく、余っている雇用や家を提供し、島へ留学するという形を取ることも視野に入れていくべきではないかという結論に至った。実際に対馬市を訪れてみて、対馬の人々は定住者の獲得という気持ちが根強いということが分かったが、いきなり増やすということはとても難しいため、定住に拘らず移住者を増やすべきではないかと考えた。そのため現在の対馬の経済を停滞させないためにも、移住者を迎え入れることによって、持続可能な街づくりが可能になるのではないかと考えた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3-A 北西悠真

研究分担者 3-A 佐藤昴太 2-E 千野日奈太

担当教諭 柿沼亮介

(受給額: 26000

円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

対馬の地域創生

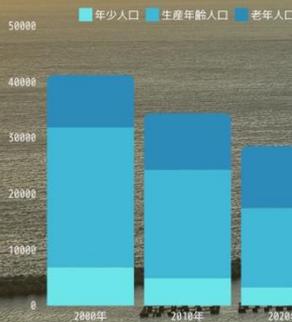
佐藤昂太/早稲田大学高等学院

01 はじめに

私は学校の「越境対馬2024」というプログラムの一環で、今夏対馬を訪れた。そこで「対馬の開発」を研究テーマとし、調査した。はじめは対馬でリゾート開発を行うことで、経済効果が見込めると考えていたが、他の地域のリゾート開発の事例を調べる中で、大規模な開発は対馬にはふさわしくないと考えるに至った。

そこで、人口減少と過疎化が急速に進行する対馬の現在の観光業の実態を踏まえた上で、移住者を増やす方法について検討した。

02 対馬の現状



→対馬の産業を支えている生産年齢人口と対馬の未来を担う年少人口が減少しており、高齢化が進み老年人口が増加している現状にある。

観光物産協会Aさん

生産年齢人口の減少により、宿泊施設や飲食店は常に人手不足の問題を抱えている。

対馬には大学がないため、高校卒業時にほとんどの若者が1度は島を離れてしまう。

地元の商店Bさん

→若者が島外へ流出してしまうため、生産年齢人口が減少し、観光業関連の仕事があるにもかかわらず、働き手が足りない状況となっている。

03 他島での対策事例

鳥取県 隠岐諸島 島前地域 「大人の島留学」

全国各地の20代の人たちが、島前地域に最短3か月で移住でき、そこで働けるプログラム



このプログラムにより、人口減少下でも島外から新たな移住希望者が毎年来島するため、人は選り変わるものの、一定数の人口を確保できる。

↑「大人の島留学」は「還流性」を伴う新たな「関係人口」の形態 [長友2023]

→ 定住するとは限らないものの、移住者を増やすことはできる

04 展望

対馬市は移住してくる人に「しま暮らし支援補助金」を支給しているが、それは最大3か月の一時的な金銭的サポートにしかならない⁴。そのため移住と雇用を結び付けるプログラムとして、移住後に生計を立てやすい環境を整えることが、人口増加につながるのではないかと考える。

また対馬市の施策は定住を目指すことに偏っているが⁵、「大人の島留学」のように、必ずしも定住に繋がらなくとも、移住者を増やすことを目標とすることも、必要なのではないか。そのためには、定住しない移住者に対する島民の理解もまた問われている。

*参考文献

[1] 対馬市「人口（国勢調査）」(https://www.city.tsushima.nagasaki.jp/eiyousei/soshiki/shimadokur1/detsukokuhaku/tekes/1276.html, 2024年11月18日閲覧)

[2] 「大人の島留学」(https://otena-shimayugaku.jp/, 2024年10月31日最終閲覧)

[3] 関係人口から滞在人口へ(『国際学研究』12-1、2023)(https://wansei.repo.nii.ac.jp/records/3825, 2024年11月27日閲覧)

[4] 対馬市しまぐらしガイド「移住・定住支援補助金」(https://www.city.tsushima.nagasaki.jp/jiyu/suupor2/jyu-suupor2/index.html, 2024年11月20日閲覧)

[5] 対馬市長期人口ビジョン(改定版)(https://www.city.tsushima.nagasaki.jp/material/files/group/25/tyoukijinkobijyon-r2.pdf, 2024年11月27日閲覧)

